長野・松本城下町跡中町（まつもとじょうかまち　なかまち）

1　所在地　長野県松本市中央三丁目
2　調査期間　第三次調査　二〇〇二年（平14）四月
3　発掘機関　松本市教育委員会
4　調査担当者　竹内靖長・栗田幸信・菊池直哉
5　遺跡の種類　城下町（町屋）跡
6　遺跡の年代　一七世紀～一九世紀
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

松本城下町跡中町は、本町・東町とともに、いわゆる親町の一つとして、町人町の軸をなしていた。また、善光寺街道沿いに位置し、種々の品目を取り扱う問屋が集まり、本町とともに内外の商品流通の拠点としての役割を果たしていた。

今回の調査地は、享保九年（一七二四）の史料（河辺家文書）によると、中町の東端から二軒目の漆屋にあたる。調査では、一七世紀前半から一九世紀後半の整地層を五層確認した（現地表下一四〇㎝）。調査は第五検出面までにとどめたが、トレンチ調査により城下町形成初期の生活面の遺存を確認した（現地表下一六五㎝）。検出した遺構は、土坑・ピット・建物・溝状遺構などで、城下町形成時から近代までの町屋の変遷を、良好な状態で明らかにできた。

（松　本）

木簡は、第一検出面の土坑から六点出土した。第一検出面は元治二年（一八六五）の火災のものと考えられる火災焼土層である。(1)～(5)は、廃棄土坑と考えられる土坑一から、(6)は埋設桶の設置された土坑四から出土した。伴出遺物には、陶磁器（瀬戸美濃産・肥前産・京都産・信楽産）、木製品（漆椀・箸・曲物・扇子・刷毛・下駄・独楽）、金属製品（煙管・銭貨・火打ち金具）、土器（土師器皿・焙烙鍋）がある。これらは全て火災後に廃棄された一括遺物である。

8　木簡の釈文・内容

土坑一

(1)
・「（焼印）□□□」　254×(31)×20　081
・「□□□」

(2)
・「中八□□□」　233×(28)×8　081
・「（焼印）□□□」

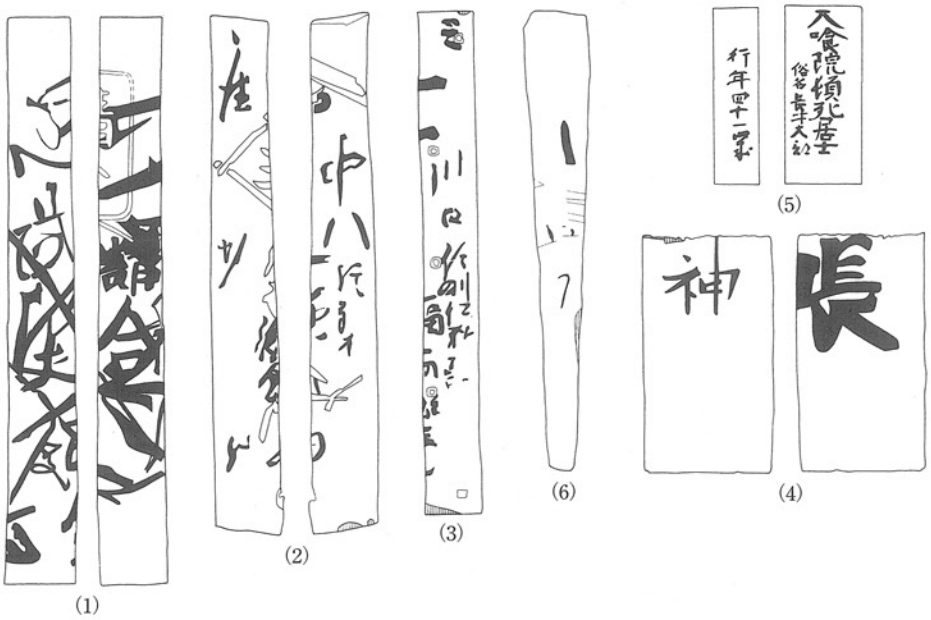
(3)
「□
□」　川□信州仁科□□〔大町カ〕
□」　255×(25)×7　081

(4)
・□〔帳カ〕」
・神」　(107)×57×2　019

(5)
・「大喰院頓死居士
俗名長平大部」
・「　行年四十一歳」(左側面)　80×34×20　061

土坑四

(6)
「□」　206×28×4　051

(1)～(3)は荷札と考えられるが、縦に半裁されており、また重ね書きや墨痕の流失により判然としない。(3)は、左寄りに等間隔に三カ所孔があけられている。(4)(6)は用途不明。(5)は位牌か。その死に様を彷彿とさせる戒名であるが、実際に使用されたものかどうかはわからない。

(太田万喜子)